

09:30-12:25 分科会 A① 代表者：東賢太朗（名古屋大学）

「楽園観光」の現在形—イメージからフィールドへ

A01 趣旨説明

A02 吉田竹也（南山大学）

リスク社会の中の楽園観光—バリ島ウブドの日本人観光ビジネスを中心に

A03 東賢太朗（名古屋大学）

虚構と超越—フィリピン・ボラカイ島の「楽園」の喪失をめぐるノスタルジア

A04 鈴木佑記（東洋大学）

数のまなざし、少数の目—タイ・アンダマン海の「楽園」観光地における視覚をめぐる様相

A05 福井栄二郎（島根大学）

比較された「楽園」、類化された「伝統」—ヴァヌアツ・アネイチュム観光からみるグローバリゼーション

A06 市野澤潤平（宮城学院女子大学）

楽園のコンシェルジュ—プーケットの日系ダイビング・ガイドの事例にみる「楽園」の裏側

コメンテータ：門田岳久（立教大学）

13:30-13:55 A07 吉本裕子（横浜市立大学）

創発的に生起する相互依存—二風谷アイヌ語教室の分析から

14:00-14:25 A08 百瀬響（北海道教育大学札幌校）

北海道における教員養成大学学生の既存アイヌイメージ形成過程について—北海道教育大学札幌校の事例から

14:30-16:55 分科会 A② 代表者：瀬川昌久（東北大学）

宗族研究展望—古典的研究対象の現在を再考する

A09 趣旨説明

A10 小林宏至（日本学術振興会）

客家土楼から宗族を再考する—「分裂」か、あるいは「複製」か

A11 稲澤努（東北大学東北アジア研究センター）

現代中国の「漁民」と宗族—広東省東部汕尾の事例から

A12 兼城糸絵（鹿児島大学法文学部）

宗族であり続けることの意味—福建省福州市郊外の移民母村の事例から

A13 川口幸大（東北大学）

国家と宗族—親族研究の新たな可能性に向けて

コメンテータ：末成道男（東洋大学）、長沼さやか（静岡大学）

B 会場（201B） 第一日目 5月17日（土）

- 09:30-09:55 B01 佐藤峰（JICA 研究所）
開発人類学の挑戦～Working from Within～—開発実践・援助実務・政策研究の「現場（フロンティア）」より
- 10:00-10:25 B02 池田陽子（インディペンデント）
ニューヨークにおける日常の中の環境運動とその継続—コミュニティーガーデンボランティアの視点
- 10:30-10:55 B03 渋谷節子（星槎大学）
グローバル化時代の日米の教育における文化的背景の比較—「失敗」の意義の相違について考える
- 11:00-11:25 B04 杉本敦（東北大学）
ルーマニア農村家族の変容—財産相続と養老にみる合同家族化
- 11:30-11:55 B05 後藤正憲（北海道大学スラブ研究センター）
現代のロシア・チュヴァシ農村におけるアントレプレナーシップ
- 12:00-12:25 B06 河西瑛里子（国立民族学博物館）
フィールドにおける調査者と被調査者の関係性—イギリスのグラストンベリーでのフィールドワークを事例として

-
- 13:30-13:55 B07 登久希子（大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程）
アーティストがつくる本—現代美術と作品の位置づけに関する一考察
- 14:00-14:25 B08 田中理恵子（東京大学大学院総合文化研究科）
「生成」の芸術人類学に向けて—現代キューバのクラシック音楽実践をめぐるモノとヒトの動態
- 14:30-14:55 B09 武田優子（一橋大学）
情動の社会空間—現代ブエノスアイレスのタンゴ・シーンにおける男・女・音楽
- 15:00-15:25 B10 青木啓将（早稲田大学）
「生きるための刀」と目指される刀—現代における日本刀の継承と創造
- 15:30-15:55 B11 田中大介（早稲田大学人間科学学術院）
設計される死—日本における葬儀業の活動事例を通じた現代的ライフエンディングの探究
- 16:00-16:25 B12 鈴木洋平（東京大学）
継承の「納得」—墓の建立と維持、そして日常に復するということ
- 16:30-17:25 B13-14 映像作品上映 喬旦加布（総合研究大学院大学文化科学研究科）
チベットアムド地域における収穫祭—ルロ

C 会場 (303) 第一日目 5月17日 (土)

- 09:30-09:55 C01 緒方しらべ (国立民族学博物館)
「アーティスト」として生きる—ナイジェリアの都市イレ・イフェにおける「アート」の市場と「アーティスト」の実践
- 10:00-10:25 C02 吉田早悠里 (大阪府立大学)
霊媒師の处世術—エチオピア南西部カファ地方におけるエコ信仰の盛衰
- 10:30-10:55 C03 岡本圭史 (九州大学)
霊的リスクへの対処としての改宗—ケニア海岸地方ドゥルマのキリスト教と妖術
- 11:00-11:25 C04 村尾るみこ (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)
アンゴラ東部の農村部における生計活動
- 11:30-11:55 C05 佐久間寛 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)
この土地は誰のものですか—ニジェール西部ソンガイ系社会の土地制度をめぐる所有と情動
- 12:00-12:25 C06 園田浩司 (日本学術振興会)
子どもの関与を引き出す大人の非指示的態度—バカ・ピグミーの狩猟採集活動における相互行為分析

-
- 13:30-13:55 C07 映像作品上映 原紘子 (育英短期大学)
The Art of Becoming (生成変化のアート)
- 14:00-14:25 C08 松村恵里 (金沢大学)
製作者の多様化と「つくる者」としての自己表象の選択—南インドで製作される「伝統的」寺院掛布製作の事例から
- 14:30-14:55 C09 濱谷真理子 (京都大学)
あいだにすべりこむ—北インド・ハリドワール郊外における女性行者の托鉢実践
- 15:00-15:25 C10 飯塚真弓 (京都大学大学院 人間・環境学研究科)
通過儀礼からみる女性観の再考—南インド・ヒンドゥー寺院司祭の再生産儀礼を事例に
- 15:30-15:55 C11 田森雅一 (東京大学)
“再帰的グローカル化”と音楽伝統の再生産—インド・ラージャスターンにおける世襲音楽家一族の100年
- 16:00-16:25 C12 岡田朋子 (筑波大学)
「サマージ」の合意形成—北インド・ブンデラカンド地方の異ジャーティ結婚と浄化儀礼
- 16:30-16:55 C13 古川不可知 (大阪大学大学院 人間科学研究科)
ポーターから「シェルパ」へ—ネパール・ソルクンブ郡における職業階梯、および道の人類学にむけての試論
- 17:00-17:25 C14 中島成久 (法政大学国際文化学部)
アブラヤシ農園紛争における移住者の位置—インドネシア、西スマトラ州の事例より

D 会場 (202) 第一日目 5 月 17 日 (土)

- 09:30-09:55 D01 **難波美芸** (一橋大学)
断絶した交通インフラストラクチャー—ラオス史上初にして唯一の旅客鉄道の事例
- 10:00-10:25 D02 **平田晶子** (東京外国語大学大学院地域文化研究科)
水牛供犠からの解放?—ラオス、モン・クメールのマコン父系社会における祖先供養ラプッの事例から
- 10:30-10:55 D03 **箕曲在弘** (東洋大学社会学部)
噂が誘発する取引関係—ラオス人民民主共和国におけるコーヒー栽培農民と仲買人／協同組合の関係から
- 11:00-11:25 D04 **金龍哲** (神奈川県立保健福祉大学)
鎌で剃る「秦の髪型」—ピャサ・ミャオ族の成年儀礼の伝承を巡る力学
- 11:30-11:55 D05 **岡部真由美** (日本学術振興会／国立民族学博物館)
タイ北部国境地域における仏教僧による「開発」と宗教実践の再構築—カティン儀礼の復興を事例として
- 12:00-12:25 D06 **吉野晃** (東京学藝大学)
固定的祭祀施設・女性シャマン・文化復興運動—タイ北部、ユーミエン(ヤオ)社会における新たな宗教現象に関する中間報告 2
-
- 13:30-13:55 D07 **山本文子** (大阪大学大学院人間科学研究科)
二つの信念のはざまで—ビルマにおけるナッを崇拝する仏教徒の事例から
- 14:00-14:25 D08 **秋保さやか** (筑波大学)
クメール農民の「革命の時」—開発の自律概念をめぐる認識の差異に着目して
- 14:30-14:55 D09 **朝日由実子** (上智大学 アジア文化研究所)
カンボジアの絹織物業における技術伝承の在り方—歴史的断絶からの復興と市場経済化の中での在来技術
- 15:00-15:25 D10 **王維** (香川大学)
地域性による観光文化資源の成立と活用の差異性—春節祭を事例として
- 15:30-15:55 D11 **岩原紘伊** (東京大学大学院総合文化研究科)
都市化と村落ツーリズム—インドネシア・バリ島バドゥン県 K 村のプロジェクトを事例として
- 16:00-16:25 D12 **日丸美彦** (愛知県立大学大学院)
持続可能性の再構築と先住民族の儀礼性—フィリピン環境演劇にみる身体知・暗黙知の形成
- 16:30-16:55 D13 **ベル裕紀** (東京大学大学院総合文化研究科)
韓国における移住労働者の組織化—カンボジア人労働者の互助団体の形成を事例として
- 17:00-17:25 D14 **永田貴聖** (立命館大学 衣笠総合研究機構)
在韩国フィリピン人の社会関係の広がりについて—ソウル特別市と C 道 C 市の事例を中心に

E 会場 (204) 第一日目 5月17日 (土)

- 09:30-9:55 E01 平野智佳子 (神戸大学)
「アボリジニ」「白人」の構図の限界—オーストラリア北部準州のアボリジニ飲酒規制をめぐる意見の対立から
- 10:00-10:25 E02 佐本英規 (筑波大学大学院人文社会科学研究科博士後期過程)
現代メラネシアにおける伝統音楽の商業的展開と音楽経験の変容—ソロモン諸島マライタ島アレアレの竹製パンパイプの事例から
- 10:30-10:55 E03 門馬一平 (北九州市立大学大学院社会システム研究科)
旅してトボトボーパプアニューギニア・カルヴァドス諸島における原始貨幣の交易研究
- 11:00-11:25 E04 新本万里子 (国立民族学博物館)
病院出産への移行による生殖観の変容—パプアニューギニア・アベラム社会における出産慣習の変化から
- 11:30-11:55 E05 木下靖子 (北九州市立大学)
食物分配における内発的動機を生み出す一致の感覚—バヌアツ共和国の事例から
- 12:00-12:25 E06 河野正治 (筑波大学大学院・人文社会科学研究科)
評価する行為としての再分配—現代ミクロネシアの伝統的首長制におけるヒエラルキーの実践
-
- 13:30-13:55 E07 深田淳太郎 (一橋大学大学院社会学研究科)
ビッグマン、ビジネスマン、強欲な老人とただ村にいた人—経済行為における「道徳」の位置をめぐる一試論
- 14:00-14:25 E08 田所聖志 (秋田大学)
ニューギニア山地民における人間関係の秩序—テワダ人社会における年齢体系、リーダーシップ、男女関係を例に
- 14:30-14:55 E09 槌谷智子 (東京大学大学院)
「クラン」再考—パプアニューギニアの石油開発と「クラン」
- 15:00-15:25 E10 倉田誠 (近大姫路大学)
〈圏〉としての「障害者」—サモア社会における障害者支援 NGO ロト・タウマファイの活動から
- 15:30-15:55 E11 神山歩未 (名古屋大学大学院文学研究科)
ニュージーランド・マオリのマラエ再考—マオリ建築の変遷とマオリポリティクス
- 16:00-16:25 E12 宮内壽美 (明治大学大学院 政治経済学研究科)
アイデンティフィケーション・ツールとしての「伝統的」文化活動—ハワイの茶道グループを事例として
- 16:30-16:55 E13 井上昭洋 (天理大学)
想像の主権—ハワイ人主権運動を歴史的文脈において捉え直す
- 17:00-17:25 E14 山口徹 (慶應義塾大学)・棚橋訓 (お茶の水女子大学)
「伝統」を裏付ける構築された景観—北部クック諸島プカプカ環礁の考古学的情報とその歴史人類学的解釈

F 会場 (103) 第一日目 5月17日 (土)

- 13:30-16:30 人類学関連学会協議会 2014 年度合同シンポジウム
「ヒトがヒトであるゆえん—学習能力の進化をめぐって」
- 栗本英世 (大阪大学)
趣旨説明
- 佐野賢治 (神奈川大学)
ヒトから人へ—一人前の民俗・成人登拝習俗を中心に
- 寺嶋秀明 (神戸学院大学)
人類社会における教育の進化
- 西秋良宏 (東京大学総合研究博物館)
現生人類とネアンデルタール人の学習に関わる考古学的証拠
- 樋口重和 (九州大学)
ヒトの共感・模倣と脳内ミラーシステム
- 古市剛史 (京都大学霊長類研究所)
ボノボはなぜチンパンジーのように道具を使わないのか？

A 会場 (105) 第二日目 5月18日 (日)

09:30-11:55 分科会 A③ 代表者：河合洋尚（国立民族学博物館）
ランドスケープの人類学—競合論から整合論へ

A15 趣旨説明

A16 岩田京子（立命館大学大学院）

「場所」の構築をめぐるコンフリクトの調停—京都・嵐山における景観保全のための住民組織の活動を手がかりに

A17 安田慎（帝京大学）

「共有の連鎖」が生み出す風景—ザムザム・タワー建設とマッカ宗教景観論争をめぐって

A18 椿原敦子（国立民族学博物館）

まなざしのコンフリクトと景観の創出—ビバリーヒルズ市におけるデザインレビューのプロセスから

A19 河合洋尚（国立民族学博物館）

構造色としての景観—中国客家地域における文化的景観の競合と整合

12:30-14:50 総会（201A）

15:00-17:25 分科会 A④ 代表者：西本太（総合地球環境学研究所）
動物殺しの担い手ができるまで—比較民族誌研究

A20 趣旨説明

A21 吉田匡興

動物殺しの担い手が「立ち現れるまで」、「立ち現れてから」—パプアニューギニア、アンガティヤ社会における狩猟が成功するための条件

A22 中野麻衣子（東洋英和女学院大学）

消えゆく悲鳴、「殺さない主体」と「見えない殺し手」の出現—バリにおける家内の屠畜の衰退と専門的屠殺人の成立

A23 奥野克巳（桜美林大学）

殺される動物、殺す人の出現—サラワク・プナンにおける狩猟の組織化

A24 田川玄（広島市立大学）

狩猟・供犠・殺人—南部エチオピアの牧畜民ボラナ・オロモにおいて殺しの担い手となること

コメンテータ：竹川大介（北九州市立大学）

B 会場（201B） 第二日目 5月18日（日）

09:30-11:55 分科会 B① 代表者：道信良子（札幌医科大学）

こどものいのちと対話する手法

B15 趣旨説明

B16 荒木奈緒（北海道大学大学院保健科学研究院）

周産期医療の中で生きる子どものいのちと看護師のかかわり

B17 西方浩一（文京学院大学）

食べる機能に困難をきたした子どもとその作業療法支援—子どもの生きる力を育む関わり

B18 幅崎麻紀子（筑波大学）

ネパール・バフン社会における母親の就労と子育て環境の変容—子どもとのコミュニケーションを中心に

B19 亀井伸孝（愛知県立大学）

障害をもつ子どもの生態人類学的理解—身体と資源利用に注目して

コメンテータ：白川千尋（大阪大学）

12:30-14:50 総会（201A）

15:00-15:25 B20 林麗英（国立民族学博物館）

台湾原住民族の文化復興に NGO・NPO が果たす役割と課題—台東太麻里溪域の有機アワ栽培プロジェクトの事例

15:30-15:55 B21 田本はる菜（筑波大学人文社会科学部研究科）

「原住民工芸」の制作現場—現代台湾の多文化主義とその集合的实践

16:00-16:25 B22 藤井真一（大阪大学大学院人間科学研究科）

紛争の渦中における生計活動と生存戦略—ソロモン諸島ガダルカナル島北東部の日常生活から

16:30-16:55 B23 大津留香織（北九州市立大学）

葛藤解決のプロセスにおける「修復」と「時間軸」—バヌアツ共和国エロマンガ島の事例より

17:00-17:25 B24 吉村美和（京都大学大学院人間・環境学研究科）

生と喪失の関係性—コソボにおけるアルバニア系住民の紛争の記憶を事例にして

C 会場 (303) 第二日目 5月18日 (日)

- 09:30-09:55 C15 **ガザンジェ** (金沢大学人間社会環境研究科)
青海省チベット族村社会の政治組織と経済の変遷—同仁県シュンポンシ郷チュルマ村の調査事例から
- 10:00-10:25 C16 **緒方宏海** (早稲田大学)
未来へつなぐ「華僑村官」の村づくり—中国遼寧省の「華僑村」の事例を中心に
- 10:30-10:55 C17 **宮脇千絵** (国立民族学博物館)
「民族衣装」をめぐるポリティクスと「民族衣装」の既制服化—中国雲南省におけるモンを事例に
- 11:00-11:25 C18 **兼重努** (滋賀医科大学)
風水文化圏における水の意味づけ—西南中国・トン族村落社会の事例から
- 11:30-11:55 C19 **司玉潔** (愛知県立大学大学院国際文化研究科)
中国生態保護政策下におけるモンゴル族遊牧社会の動態—青海省海西モンゴル族チベット族自治州を事例に

12:30-14:50 総会 (201A)

- 15:00-15:25 C20 **比嘉理麻** (日本学術振興会)
ブタのモノ化と擬人化—沖縄の企業型養豚場にみる人間と産業家畜の関係
- 15:30-15:55 C21 **吉田佳世** (国立民族学博物館・外来研究員)
沖縄の祖先祭祀における姉妹と嫁—沖縄女性へのまなざしを再考する
- 16:00-16:25 C22 **上水流久彦** (県立広島大学)
八重山と台湾との境域にみる記憶の継承—「空間」と「場所」、「中央」と「周辺」のせめぎ合い
- 16:30-16:55 C23 **平井芽阿里** (國學院大學)
神々の聖なる森を守ること—村落祭祀の現状と実践についての考察
- 17:00-17:25 C24 **唐木健仁** (愛知県立大学大学院 国際文化研究科)
離島における洗骨改葬—沖縄県与那国島の事例から

D 会場 (202) 第二日目 5月18日 (日)

- 09:30-9:55 D15 中村八重 (啓明大学校)
韓国人観光客誘致に見る韓国認識と相互関係—なぜ対馬に韓国人観光客が多いか
- 10:00-10:25 D16 本田洋 (東京大学)
コミュニティと場所—韓国の地域社会におけるローカルな関係性と共同性
- 10:30-10:55 D17 澤野美智子 (神戸大学)
「フィード(feed)の人類学」の構築に向けて—乳がん患者の「モギギ」の事例に基づく試論
- 11:00-11:25 D18 瀧上恭子 (日本文化人類学会)
韓国の生殖ツーリズム—「グローカル化」する代理出産
- 11:30-11:55 D19 伊藤亜人
北朝鮮社会における生存戦略と非公式領域—脱北者情報による人類学的接近

-
- 12:30-14:50 総会 (201A)
- 15:00-15:25 D20 山口宏美 (北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST))
慢性疾患予防のためのチーム医療—診療報酬と医療情報ツールによる媒介から
- 15:30-15:55 D21 中川敏 (大阪大学)
異文化の見つけ方—則天去私の共同体という人類学的問題
- 16:00-16:25 D22 鳥山純子 (自由が丘産能短期大学)
00年代カイロの女性教育者をめぐって—「個の民族誌」から見えるもの
- 16:30-16:55 D23 佐島隆 (大阪国際大学)
現代トルコにおけるアレヴィー・エスニシティの継承と変化
- 17:00-17:25 D24 池田昭光 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)
カナダ・アルバータ州のレバノン系住民に関する調査報告—理容業と社会的ネットワーク

E 会場 (204) 第二日目 5月18日 (日)

- 09:30-09:55 E15 矢島妙子 (明治大学 法と社会科学研究所)
地域文化表象の展開の分析—ローカルヒーローにおける設定の構造
- 10:00-10:25 E16 荒川裕紀 (北九州工業高等専門学校)
十日戎開門「神事」の創造—西宮神社における近現代の変遷より
- 10:30-10:55 E17 小西信義 (北海道大学大学院文学研究科)
当惑する雪かきボランティア—北海道、豪雪過疎地域における除排雪活動に関する人類学的研究
- 11:00-11:25 E18 大戸朋子 (北陸先端科学技術大学院大学(JAIST))
同一嗜好の女子コミュニティにおける純粋な関係性—腐女子のメディア利用と対面コミュニケーションを事例として
- 11:30-11:55 E19 田中雅一 (京都大学人文科学研究所)
緊縛/縛りから kinbaku/shibari へ—グローバル化する日本の性文化

-
- 12:30-14:50 総会 (201A)
- 15:00-15:25 E20 中田英樹 (国立歴史民俗博物館)
底辺労働力動員としての外国人労働者の新規就農—日系ブラジル人を農業の担い手として期待視する地域の事例から
- 15:30-15:55 E21 古川勇気 (東京大学大学院総合文化研究科)
酪農家の生存戦略と地域開発—ペルー、チャンタ・アルタ村落における ITDG の影響を事例に
- 16:00-16:25 E22 山本睦 (国立民族学博物館)
アンデス文明形成期における神殿をめぐる人々の活動
- 16:30-16:55 E23 陳珏勳 (台湾大学)
伝統を守り続ける女性—三社祭における芸者衆の一考察
- 17:00-17:25 E24 関一敏 (九州大学)
龍神の夢—あたらしい社が造られるとき